



中国産原薬の価格高騰で ジェネリック医薬品メーカーに影響か

株式会社じほう 報道局
海老沢 岳

先日、弊社日刊薬業で中国政府が環境保護の規制を強化した影響で、中国産原薬の価格が高騰している状況を伝える記事を書いた。

中国でかつては地方政府の官僚が賄賂の受領や地元の産業振興の観点から汚染物質の流失に目をつぶっていたが、中央政府が環境汚染の規制に本腰で乗り出した結果、工場の操業停止や閉鎖が起きている。

原薬の原材料となる“出発物質”の製造で中国が世界で使用される出発物質の7、8割を作っているとみられ、世界各国で原薬価格が高騰する恐れが出てきているという。

新薬は薬価が高いので薬価に占める原薬の割合は低いが、後発品は薬価の50%から60%とも言われ価格高騰の影響が後発品メーカーでより大きいとの傾向もある。

取材を進めていると、識者からは中国での環境保護規制はまだ関係法制の整備中なので今後さらに厳しくなっていく可能性は高いし、政府もそういう方針を打ち出していると、中国産原薬の価格高騰問題も続くとの見方を示している。

日本ジェネリック製薬協会の澤井光郎会長も5月末の会見で「法令によって中国全企業の環境保護投資が進んでおり、さまざまな分野で値上がりが起きている」と危機感をあらわにしていた。

原薬価格高騰の問題は▽新興国での人件費の高騰▽規制強化に対応できなかったライバル工場の閉鎖により原薬メーカーが競争優位に立ち値上げする▽環境規制に対応するため設備投資がかさみ値上げするなどいくつかの要因が絡み合っていてわかりにくい。

製薬業界に情報提供する媒体としてこうした社会問題にも目を向けて現場で何が起きているのか今後も報道していきたい。